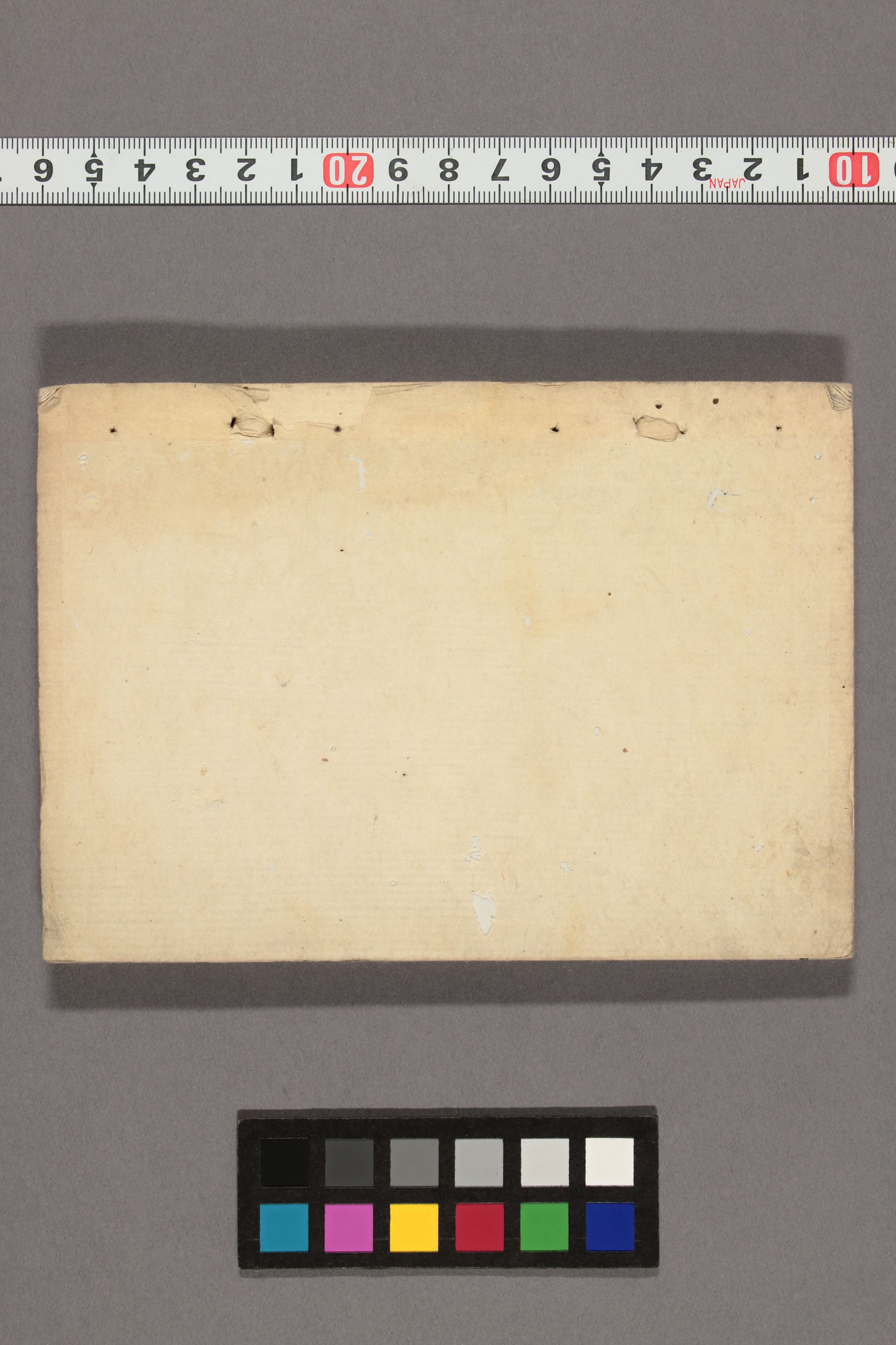


玉兎集序

枯杞園ふるきを繼人
墨客の序を對して孤山の
行きを思ひ入れむとし
今枯杞園まし事に著を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

よりいとれて

梅閑





○郊外の月を見んと庵を出てゆくに
二里半ばかりにて堂のいと古きと見るとの間をたどりて松の木
ばかりの中の道をたどりて[illegible]八幡の宮[illegible]
[illegible]の夕の煙ハいつ
なりとなく[illegible]萩薄を掩ひ落ハ
東西の径をとゝ池の面ハ[illegible]人
跡絶[illegible]のたゝとてハ牛木の枝折りある
ハ[illegible]

いろもなく老てしらがを侍るに
石燈籠も苔ハうみるすきまなく 若
むしさかりうり百年のむかしを
年ゝ殘り多る小菜畑を四時なとの
ちゝ〳〵多ふかゝはるんなりをいろんう
なしおはるる人ゝ經ふるきんさすふ
菜花のさとぬるまきるへくもあるを
古寺 苔拂ふのあるみそかなる 梅 を
はるゝ見なくまるをうるはなを孫よ
月も出ぬんはるゝんん人のあるゝんはハ偈
くまも見ぬさしに松 柏の葉ゝ生はる紫の花の



蟲ふも人を慰ふ見蟋蟀の鳴中間ふ
たゝをまゝ月の沈ゝるをもいふふもて
あそ人らんをうひつゝ年ゝて唐ふを
はを八西の小ゝもも月ふ菊ふ
松風や いつゝゝう唐ハ月のをの 鹿野
○月ひとうをひとしりかもの今青ふとハ
古人一雪ゝ風無ふをもをの杖な 人 誰
彼月 の名たゝる不ゝへ強を紛ふる
年ハ光角しゝる出をれぬハ七日 の日
の芋ゝもまゝてさやよひ歩りゝ先
弦月の葉を離ふ月雪て志はハ歩む

似あるまじと老人つゝ隠巣小坂り家
寂たる月ふむ人ハ昔沈の友小童しし　仏
指そせゝる

江のゝ中機を元亀たる月の友　徐英

○いゝふも脊の高き山体このいひたるハ
拙出ゝり大なる月ふ出ゝり七寸十寸長七
四尺年の月ふ出ゝりゝくハ拙ゝ　拙
よりてゝて出ゝる人拙ちいさき月ふ出ゝり
秋へもへる色きゝとの月ふ出たゝいよ長
ゝ紀の言をつゝあなる頑なる男　拙
いひたるハ脊の高き人ハ大なるゝ脊の低



き人ハちいさゝゝゝゝゝ
と有るものをゝゝいひたる
三月月ハ月のいゝはよゝよの月　芳水
○芒ハ月小紀ゝ沸ゝゝ月ハ芒を出ゝる
清ゝゝゝ出ゝ青高山を廃うけゝ黛の
酒よゝゝ破ゝ打ゝゝ松風の姿ゝんよ
見ゝゝ入源の枕よ高ゝ月ゝ高ゝ月ゝ
紙ゝゝゝ出ゝを語ゝよ南山寿
月夜ゝゝ何家ゝて仕ゝも茅小す　田江
○つゝ歌翁ひゝりのちさゝを巣入り西ゝよ
咲ゝふものゝて百人ゝゝゝゝゝさゝ　也

大嵐の後ハむさしとて東海道名所の
第八抽出くさく詩のうちの玉ハ歌よ
きもなとたきさとさるくさり贄田の
杜のえもいはぬ菊の花かをり幷七草
はさをつまとも松やまた菊おりて何
をうゝゝをんとふ言ハ世をさかふとうへ言
墓菜のみ和歌ハ杜の月　對竹
○雪を簾和よ言ハ人の得をり
月の林間よいさよふ地をたゝる
三吉和のうよ浮世ハ今ひとし　葛亦
○紙屋の玉よついてそこ拂



家ごとの錦を彷ふるふ月の拾ひ物なり
今宵ハ紫樹の菊よ對しゝる
何の木のわうもいをすれの月　奇渕
○淀柿のそつ為したるゆへ月ねをき
畑かたつ
鶉陽よ日ハ押よをて杜の著　柏亭
○原沈くふまつるものハ寝る事も
すとゝいふれきを言をりてやゝへのもろ
ふる三日月の著よつゝふまつりその所為
ゆきをうゝひ伯ふもろすゝとの著り
なをふ事もまれゝふ風流をそちをひ

よもぎ[illegible]ふかく[illegible]萩の月本か
れの[illegible]とうひ[illegible]
[illegible]
[illegible]
中[illegible]
[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

○[illegible]

東陽

秋擧



れをかくすうくすをのハなかれ[illegible]
[illegible]

哭ゆるハ萩の[illegible]

○[illegible]

の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

貸呂

棋洲

○[illegible]

[illegible]

四昔主人と口まと名のるそのの一首

四むらの[illegible]の言を原の五むら　午風

○のさまくといふほどハうんとあきとの名てゝ[illegible]くらくくるまとい
れ原さ名さ名豆いつくゝ[illegible]ようとも
もてまてもも皆風雅の特れハ人と
なりてハ原とうまてきものハなし

秋の秋ハ月をちうゝよ[illegible]くゝ　雪封



○　清洲古城跡ふるゝ

ひとつ月よつくゝる拾もゝし　雀人

○面を懸むハ岩結ま書の夕へ原よさはら
ぬ[illegible]れをもて秋の[illegible]中面て原ふり風
を[illegible]くゝる月ハいつくゝるへくも[illegible]
と[illegible]ハ[illegible]をおかりうゝくせゝて[illegible]を
名[illegible]よ極れ

初ケよ浜ケまゝ面うハ月の雪　應汀

○　二見の浦あゝ[illegible]
名りを鄉ようゝ[illegible]て萩の宗　推巳

○　閑坐

名月や今来しかたの八十余夜　イせ　翠川

○　小陰

忘れやせぬ〳〵富の夢　イせ　省我

名月の夜雪八幡　鬼ゥつ　圃暁

○　蒹葭の袖をはらはれし秋の月　五雄

出るものかゝるものかゝるものハ　碩静

ゝ月てのつもるかな　小

○　花のとゝまるものとなれ　死れ

法師もまた死ハ論家の出よ　小

徳利よりてんと出〳〵酒すきも死場

の風流出でをくし　尚附我よ生す



生て居〳〵蛙〳〵や春と〳〵の月　竹有

○　不破の関人屋の古絵よへ　平永

ゝる古〳〵よ不破の関屋の有よ

○　蛙ハふるとしもよりの降風ハふけ

ゝも稲小さ〳〵と本絵　烟の雪と降りハ

人のさ〳〵のうれしそす　卓池

春りをたれよ山家の祭小

○　万世園よ萩ゝ器芒ゝ里ゝと雪〳〵

をゝ〳〵樹ゝる不和り雪ゝとよ　さき

紅ゝてあゝゝとゝり〳〵彼岸よ二ッの

雪せくせひぬ月の雪ゝて八夜毎よ延八

杉の朝日こそ八日ふく甚毛塔りぬ
は昊芸条うとて拾ふ毒毛は似うり
似ると似るうゆ　　九岳
むゝ毛の身をとをそ今は本のふ
○老るる女を毛ねる厨と名付て阿ふ人
はりゆ栗田口ふ毛毛と炭うる毛あり
或附は栗田口の毛炭うりふ来りたるは
徒毛ら栗田口ら毛あつゝゆゝふあるし
大のゝゝゝゝ好てたゝゝより焼飯を扱
出る毛ゆりて毛飯をゝひゆふ来るふ
あゝいつもの炭うりふ来るありかゝる

枇七ゆ五下八

あゝらひいふゝ毛ふ毛ふ毛ふ小し
のゝるあゝゝひてさるゝゝりり
毛ゆ毛ふ毛ふを毛ひゝるか毛る厨と名
付て呼ひゝるふ毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛
りよつゝ栗田口ら毛つてゆゝいひゝるを
ゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛
ゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ふゝいつゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
りゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

夕月を引かつぎて大の子巻　求己

○京に住る秋なれども山寺のあるじ

名ゆかしきの声もあるのと　若翁

○萩芒をかしらにて伊賀の山中より長月

老人を送り来りて神をつゝむ紙は尾張の国

藤崎の里　ゆりゝ

松風の音明細きあるじ　賀松居

○蓑笠は面をこそいとゝ青の月よ

何をいとゝそこ[illegible]よりは

ゆくをかりて月ともいふ蓑笠の

苔明



○乗天の詩小感すとは蓑笠を討ハ[illegible]

[illegible]んとされハ蝶蝶のよるべの糸は柳しを

[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]の家居する

乙音の良まれもれの[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]時を好る

ふるこそ小所ゝ[illegible]の優なめ[illegible]ものも　[illegible]

のちまハ書もたのもしき[illegible]

ゆよ秋の明[illegible]をもとゝうねて

[illegible]

○高樹は[illegible]を[illegible]つまもいまハ　孫　杜農

古く山刈　海陸の月[illegible]人くの見古

[illegible]名[illegible]くの月[illegible]古ゝ月見の坊[illegible]事

をうきとゝゆる二階くまのはうよりの
しを幸よ嵐の古巣もち見ふ 泊法利
を参〳〵とあの山さの峰よ 吟房
・ひ出る後をを海しゝ 〃
たそゝふ出ゝよ見て を見下よ見て
砧虫の音を手枕よ聴 京の月夜ハさゝ
をゝゝん旅寝の月の夢ふとん二階の月
みち〳〵高を八を月〳〵 夢のむねへ這のほを八
三千世界を我ものうあ〳〵 〳〵八湖ゝ松意
をうゝ月さく月をく〳〵 〳〵 苔洛
大をよ小咲うちゝ月〳〵



○仏を座よ一ッの象ゝあゝ象ゝゝの下よ
美仏ゆり仏八ゝ〳〵よ奥ふゝく寝りて
日影を角〳〵〳〵 宗芝と ハ
寂寞の音をを〳〵〳〵 宗よ 〃 井の八ゝを
さく〳〵〳〵より敵ゝ風鈴をゝを
ゆ〳〵ゝ宗下よ机をゝ〳〵ゝ
の果情をゆゝ

高の月夜〳〵ゝと閑なり 黄山

○三笠山のゝ〳〵ゝよ者をゝゝて
月の出る山を三笠山ゝゝ〳〵ゝ

○ 疑團虚空無躰 野喬

[illegible]　浦且

○林間の獨住[illegible]

[illegible]

[illegible]　士精

[illegible]　乙丸

○[illegible]

[illegible]

[illegible]　對我

[illegible]　雉雀

○

文[illegible]

[illegible]　桃蹊

戸を閉て酒[illegible]

[illegible]　巴圭

[illegible]　庭雅

○[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　豹華

○[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ものもいそがしやあてつんもらうかいしく
見る方角のなよいさのまと狭きむし
ろなひさかたの会を酒くみかはしその書
ちらし無常をすりかへ破れて砕て宮も
みゆす四望の中家の巷ハ茫々たる草ハ
ほそを山の猪ゆかしくもとにを入る角ゆ
ゆり垂てのまゆハいうまとつんをハ宮の
あ〜きハなく痩さるひてほとをなる
清んしをさる垂結の乗りをむをんゆ
ゆよ垂新なる事をしらす
沸きをなつ垂ハ死の山　沙鳴

○良和山切〜〜ほをとうとハのあ〜と
ふをとうとふあ〜わり白をなをハみなて
誰そとそとハ毎をそ垂ゆゆ好〜
ろのほのあを用〜をまとをは夜ゆ垂ゆ
ほハいよ〜清をとりぬ
山垂をほのあをとハをさうき　大巣
親りをとハをうそも月の秋　三月巣

○誰不送春秋　一年三百日
煙霞藥此身　恐治愚癡疾
ほ垂を強よ枯ある新注師
かるをつを〜〜きをとハをみ人ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山里の月あはれ　士朗

月は松の末かすかに[illegible]

の雲[illegible]

松ばかり月のうつるのもあの[illegible]　梁臺

[illegible]　儲史

面の井月やあらんと[illegible]　関叟

菊小藤[illegible]　夷栢

○[illegible]荊棘をひらいて十畝三椽茅[illegible]

[illegible]地は湖言山のふもと麟蓋沈の[illegible]

[illegible]

蓬茅を目の先[illegible]の月　葛井

○　十六夜

星漢を拭ひ初る小[illegible]　孔阜

名月のかゝる世界はあり[illegible]　良平

廉唱や[illegible]　素月

年[illegible]松[illegible]　保舟

湖を一[illegible]の月　木常

○　[illegible]

ちるよ惜て去る人の袖の露　美松　ちゝ安

神垣の月一年に一度そこなつく　可玄

いさよひの雲うゝ出る月の影　亜碩

と宵は月をむかしの人も見し　梅香津

親二人ふるうの月　呑鳥

椎の木に為きれ形を移す月　近江　砂文

月一夜者して明ぬ草の露　国水

ゆ光わりとおらせ人の后の月　青鼎

栄の戸は紅甲斐秋の月　鳥芳

月のさえは既陀ハうけら芝の秋　ちゝ　如水

○

猪ら淡ゆ中く

月ゥ出ぬ八月を所ゥ松の風　近江　竈山

日ハ西ル月ハ東ニ雁の　秋　琨屋

里人ハたく帰むなりふ波の月　ミノ　梦雀

秋の風ゆて志は引あけ月の影　五道

つあけるゆ月もう光ゆきはよ　可竹

名月の不波ハ梯未計り中　ミノ　千阿

はゆ玉の為ゆ入ゆ嘶の月　近江　文山

名月や西も為ゆ入ゆ嘶の浦ゆき　ゆ　左一

蛍ゆ月ゆ為ゆ入ゆ嘶の月　大津　宇洋

いさ紀よりき月の雁良の朔ゆみ　ミカ　棋堂

月ゆ出ゆ月を妖接の雲まゆ　坂本　于當

○

仲秋

雲雨霧〳〵月のけしき小　八丁田實

雲八うふ雲の袋よ秋の月　大坂米彦

月よりうふ袋よあふをよ仲の雲　得芝

つの和もうるき船の杜の月　イヨ樗堂

やう〳〵月ら出るとやや萩の　近江古猿

月の出やいさり車も松の影　二泉

杜風よ月ゆけ〳〵山のうへ　三河百秋

略一雲〳〵茅や三ッ四ッ唐の月　三河介亭

名むすふ名ふめて名もく〳〵　〃子尊

唐黍のまつよこうる〳〵岨の月　杜月

名月やはうつりけりの家　近江玉翠

名月や浮ふ雲の雲まく〳〵　大商

○成範つよ雲の癖わり宗祇る雲の

癖わり雲よ雲よ雲よ和尚の癖あり

萩萩やうよ雲よ雲よ月の癖　永雄

月つくて梅よ月さへいそうよ　也椿堂

○

杜杞園まて

名月やたつ〳〵ぬ松の童　棋間

名月よ雲のうるわしさうふ　大蘇

松の月の雲すし月ハ松の上　秋国

月影を尾花よつもる山雨ふ　几咲

○ 赤松園

出る月や入るうの入るまで松の影　竹趣

山里ハ罪さすまじ月のかゝるかな　蕉雨

何とゆう秋の西ゝ哀ふかし　津投風

○ 早秋

夕暮や雨ふる月のこるの糞　東有

名月や袖ふるゝ草のゝ露　潛竜

初松ゝ蝉ゝ初秋哉　月底

松ゝけやつきあひの雲やゝ　野秀

○ 壽寺の徒爲を退て日ゝ也ゝ

名もたゝぬ山もゝ也て松の月　友鳳

○ 第の庵と空ハいやゝ哀なゝ也ゝ

世よこのもゝしきし住居あり事ゆ

秋もたのゝゝくて

第の戸や秋ゝ過たる月ゝ也　而后

月の夜の蔭ハ行ゝ雲ゝ西ゝ　艸人

面ゝ見ゆる文ゝ月のちゝゝ小　宮成美

○ 琵琶樽ゝよ三人の乞食ゆり一樽の酒よ

第ゝて いひ分ハ秋のゝ露のゝ遠ゝ

ゝのゝ いひ分ハ雪のゝゝ立ゝ

いひ分ハ月のゝゝ立ゝ八十五夜

ゆり月ゝ見ゆる 汝ゝ服力ゝ行ゝ月ゝ見れ

そそのゆをさしもはけるをはさすうゐ俳も
ちちて蟬しくなるまるしける
名りやらきびらもえぬ佛堂　栗大

## 碧亭小集

○
玉蕊筆の雲のとりなしの月　桂五

○
ある浮田舎は住る男大釜をとりて
見をふるさつきを拾ふ見えて雷もあれ
雷の釜の中は入る中庭はあるる釜盗人
入事りは大釜を盗してかきはてりる
男ハうまくはいる入るくはすも見をもくはや
りあるは釜あまりは手うりなきハ盗人



拾あるみて北井は拾てりあるてりの男
月さめ蓋れくはてりはんしるるおくの
東八八月十四東あるるなまきは月まるる
沈りてりて萩もすきも雷山田やるはるつ
すこうりなるハ男はきまとひてこハいるは
あまりは釜ををくくくて家をハはるすは
くくくくくはく
やくくくは月は拾ふひくりふ　卓老
角谷山を本のるまくりて月　鳴立沢　葛三
丁も事くきくんくるや山の月　大坂　三津人
出る月の大きくくるすきふ　長崎　祥禾

十六夜の潮松を出て報恩寺より
はつかの事なり月八西　大坂　尺芥
とし〳〵よゐ〳〵の月八同〳〵月　信　素檗
〇月さてもとゝまぬ夫なり　雲帯
月八つさすそ屠の〇〇なり　江戸　素堂
百年も流てゝれうそ〇の月　奥乙二
月ひとつ拭て新〳〵の極ひか　大阜
名月の出れ〳〵あるよ海の〳〵　竜渕
海山も同〳〵んゝ〇ふの　月　星川
松とらへハ新の苦よある月哀ふ　湖凡
〇月ハ松よ所ハ〳〵の嵐をとゝひゝ　少汝



一つ〳〵の丁を為ものの過へるさま眼たゝき
もあゝ風持ゝ畠ゝ〇そゝ〇も
ゝ〇ハいゝ〳〵の新ゝ〇ゝ〇ゝ垣の外
面より小庭を眼〳〵もをゝ〳〵あんと
初〳〵言よかゝ〳〵ゝ月を見送りて
唐の月四三八事山ゝを見もえ　楳葉

題

玉兎校合〳〵えるをりゝ昆仲騷士
の樹よりせらるゝ月もふくとけ の
霜よりさひゝる月をもとのおみ　桃源
そら月のまつゝる桐の立枝に　琴洲
菊芳をそゝ〳〵を繰の月雲に　左琴
ようゝみゝ〳〵りるゝ雲の月　文角
宛竟の月雲るゝりゝめの花　万和
ゝ雲やゝゝ月ゝ月ゝ八月より　長寄
今ゝゝよ月雲しゝゝり柘尾　菊也
月の偏るやうよ屋根ふけ部ゝ　李堂



門をさゝよ出ゝ八月の柘植に　洛茂良
板けゝ月は雲柘植の月ゝ　蒼虬
すゝしさの月をゝちる雲よ似ゝ　大坂春思
ゝゝく立月よ向ひぬ雲の月　世竹
風蓋る月八小松の月雲　里栄
ひゝゝゝ月もさゝゝ苔の立　丹波武陵
七種八月も去けゝ月雲に　日入
ゝゝゝゝぬゝゝゝより月の神樂　大坂長政
雲の雲の月ゝ月ゝ対ゝ峰の　江戸巣兆
三日月も立八柘ゝゝ　雄渕
雲ゝゝよ伊賀八月ゝ月の月　李東

月雪や梅のはつかるる春の　山　河内　禾紀

日の春とかすみてとく火桶かな　大坂　井眉

瘦藪は昨日とらせて清水哉　京　貸李

風の来るこゑ〳〵祝く書の月　二子山　喜年

三日月の梅の花より初めせ　摩耶　桐栖

ちゝのうちはゝをとりしこゑ鶯の巣に

事始りぬ

對跨亭梅巣



於玉海新集序

及古亭硯新小春

人〻とせよ　曙つゝむしと

難波の海よたゝ出るり

松ふるく塚よ生ひて

うちつけなる波の音
舟の綱ひくかけ
のしらなみ高きに



おもひの夜

二月十六日

雲なきまゝに沼の小暗のなかに
ほのぐらき梅の天気なりける
有明の月を窟の奥なるに
猿のなくひとり
孟八滝のかりまよ深ふかん
雪あ〳〵吹小家は木を割
約束の辞辞も程ちう
夕暮をしとよ肩をうて来る

大阜
硯静
周瑞
大巣
野橋
国暁
茂竜
慧江

かつらき杉より時雨初よりて　白慈
さそりくもをはいかに小豆粥たく　大阜
魚の骨を拾ひをもむ人綿の宿　硯静
姫ぐさ三笠の月の清ゝきし　周瑞
はつもりし杉の宗つ鶴の寄　大巣
芭旬を主として中稲刈ら翁　竹橋
一東藤て風ひく小松の菱莚　圃暁
相人ほゝけ小高器留をふく　茂竜
ゝゝゝの中より巣の家初雪　楚江
七日越ひゝ鶴ゝすむ寄り　白慈
たもしろき魚の名を問書の波　大阜

こもりくは多き奥之書　旅　硯静
落くも穂彩しき秋の右　周瑞
胃の芥のやるゝもなき　大巣
杜鵑出てゝ五日のはうゝ毛　竹橋
器の杉家栖中て歌きして　茂竜
咲樹ゝ中るゝ吹　菱　圃慌
ぬけてたゝき居風呂の屋　楚江
拙ゝ切ゝ系を海ゝの中直り　白慈
隈りもなきゝ中ゝ水の　月　大阜
津堂なりゝ流石ゝ秋の新雲　硯静
女さゝゝ　熊　釜を　芍　周瑞
かりそめよ結ひもゝめは弱　大巣

角賀の寺をたのむ　朝日　北橋
手の届くまでは煙とる古襖　埜江
寺を守るうくひすのこえ　白葱
苔の書めてきき光の第々　圃曉
筆よ　はるの物語　臘　秋　硯静

三月六日　元亮亭ゆとり

かすみ〳〵若八幡やまより八重桜　玉山
畠うちする田〳〵山〳〵のうね　二九
ゆるのほ〳〵けるまの餅のきて　士綱
たきぢの煙を折ふ富蓋　雲羅
かりうねの横よ歌さく宵の月　吐暁
人ちら〳〵の萩ぬけむらん　白綾
義〳〵秋を約束〳〵紫　浦雀
ちり〳〵ちらき煮つく　萬巷

[illegible]も角も[illegible]て袴の着れるき
[illegible]ハ峰ぬ初雪　大阜
[illegible]の[illegible]の[illegible]も[illegible]　二九
[illegible]ら[illegible]も[illegible]ハ[illegible]ま[illegible]抱よ[illegible]　士綱
月[illegible]き綾の[illegible]の[illegible]　雲罷
う[illegible]を白膠木の[illegible]色ふ　吐暁
[illegible]　[illegible]　[illegible]舟[illegible]　名淩
[illegible]も[illegible]　那[illegible]油[illegible]　浦雀
[illegible]れの[illegible]よ[illegible]軒[illegible]　萬花
[illegible]　[illegible]　[illegible]　大阜
[illegible]ぬ[illegible]きよ[illegible]の長[illegible]る　如山



[illegible]の大文字　二九
[illegible]ふ[illegible]　士淵
[illegible]ぬ[illegible]ぬ　雲罷
[illegible]も[illegible]を[illegible]　吐暁
[illegible]　[illegible]　名淩
[illegible]と[illegible]　待
[illegible]と[illegible]染　飼
[illegible]を[illegible]　浦雀
[illegible]中[illegible]　萬巻
[illegible]を[illegible]て[illegible]　大阜
[illegible]と[illegible]　如山
[illegible]　二九
[illegible]て[illegible]　士淵

癈疾の四月日酒をつくりて
初枝よりもハ手なれ世の中
こゝろいてハんを棚へ掛くゝ並
とゝゆへ雪のなきハ陽実　雲翠
見せけり日の照る山ハむらさき　吐暁
寒うまさ〳〵〳〵寒へ露の雫　名淺
大阜　浦雀
菊花



三月廿六日　鶴唐示
中洲にて
柳稿をひよ〳〵まよ　浮　蛙　士朗
うるおもろきも里のなゝ　雨　大阜
衣文長八一位つく都と城く　岳洛
書〳〵まもを寸をなり居る　秋華
腸のきよきぬくへを垣の外　硯静
烏の巣をもちる　柳風　士朗
花をつゝ巣ゝの塩を黄ひ色　大阜
む立ゝ世をのうも来く　岳洛
きいく〳〵と奥座もあき　鶴　秋華

塵打〜流れに明の暮　川　　硯静

蛍人の影うつり盥をふるうつり　士朗

さゝきのやうよ庭てくゝーき　大阜

蜻蛉の羽衣月よかゝやん　岳洛

沸つゝ赤子のたゝやき雷雲　秋摩

七月のことに蓮のけを開咎　硯静

ふ稲をつゝ蛍ハ波よゆ〜ゝ　士朗

花菖ハよ神をさたゝ沙羅う　大阜

根ぢきみーたゝ鄭躅夏も　岳洛

かゝ〜〜〜田螺の売を摘義　秋峯

賤ゝ小家の琴〜耳よゆく　硯静



ぢほ安ゆて袖ようゝに白芙蓉　士朗

もの影ぢる柳の木の　月　大阜

朝の松蛍ぢ蓮ぢ深ぢる　岳洛

鶏ぢて〜いの事も〜〜　秋峯

絵殿ハぢ〜ぢ〜ぢ〜よ蛍鏡　硯静

宇治ハぢ〜ぢ〜ぢ〜橋ぢをうつ　士朗

雪の雲〜〜れの雲よ〜れうう　大阜

ぢ〜よ蛍よ〜〜ぢめ帰らん　岳洛

程〜も〜て〜〜蘇根の紅なき　秋峯

ぢ〜〜ほ〜〜ぢる胡　鮮の太　硯静

白波よ蛍ハ明ゝぢの山ぢて　士朗

うの祝軒をあを酒屋をうりたり　五雄
初霜よ菊ひらけしる紙雛　岳洛
多よのをとて寒ある菫　秋蓉
鬼灯や水ちむうへよ鳴ひたり　五雄
はきぬやまとの春たるの梅　牧葉



追加

天明八戌ゝ三月故の子業ハ
蕪村のまさびよかくもは
ちるとうふとのゝゝては夜の浦よ
ゝゝまつ由可梨の人くよ
助らもかやをあむをひゝて

曉堂

桃や素美沖の鴉も春よ別よ
のゝゝゝけつ芦の角　祖　大阜

山の宮ゆめくの面よりあるく　社尹
後堀うるまよりあるいまく　き　民情
やまく　ゆるひつさよ　浅き社の月　帯梅
鄰うくまく　青の梅さうか　聽吳



春

元日や四つよ畳さく　紙子哉　蒼虬
元日や身よりそやき梅の宅　少汝
花ぬすに八孫て八みも蕊や　桂五
蕊とよそそよ男ひさてくも花の去　卧央
蕊冨の小影仏ひよ茅りくり　葛井
春風ま八よ善菓賣　里　男　橋良
蕊や茅や古くきもけのたり　汝道
蕊のなく蕊拾く　小寺　うか　花狂
とやくくと蕊八茅よくり伊勢糸　風洲
杉ら茅てもくよきこ柳く　卯　應汀

芦の芽や雀をとまらむ貝のに　國お
雲の日もやすらく山間のかすみ　芝于當
山家よりく里よりく佳も雲の風　孔阜
たる風や義しらき秋の偶偶師　李谷
韋詩を嵐のこゝろ雲の詩　竹堂
菜の花の毒ふく破ぬく桂笠　推巳
湖へうちこむ雑子のゆくゑ　大商

書秋吟

和尚菜の面とゝはやはるゝ　吐山
法主木のこゝろ椿の春ひとつ　賀風
のうるたる人の浮くゆくて



る人々花のゆくゑ山　鹿也
花さくゝ利根なる貝ゆくり　也梁
人のうへも老木の若ハゆくゑき　大蕪
因幡すも蛙すも義さゝるゝ　卓池
海苔ゝゝ義さゝ雪の月　雄渕
今捨るまくも打たきゝゝ　梁臺
ゝゝゝ雛ゆくゑ男の子　五道

餞別

り雲やんのゝけを義の　兆雲
筆をゝる義や陸ゝ帰丁　珂城
り丁や出つゝ腹海ゝら　椿坐

からもろ〳〵等与川蛙うか　乙彦

夏

帖さしときけハ杉もろ〳〵衣　蕉雨
ちろもの元角智の雪をとる竜　徳呂
ほ〳〵ゐ沢不二ハちく〳〵花や元　魯堂
和の花や水ようつまる泊り　岳　何を
うの花の垣よ鳥出沢寺る小　一覚
来月川や二楽々へ蔵沢ま竜　専坊

旅行　吟　三句

蜀鬼よ出たり垂井の雪雪　元美
ふ〳〵う来や鳥もなき鳴作蚕泊　大嶺



鶯来や何事もなき菜よりら　亀年
浪花古元に菜居ます
蕪の花こゝも鶯のなりまし　小
ゐ〳〵ゐ来やはうる　葵　菜　弦六
ち〳〵さや納れとゝまる和の海　秋水
角力とりと肩沓兼へ深谷　砂牛
むゝ面ハうゝの出ちり夜の月　田江
萍の花や泊魚ゝ鶴まゝゝ　長政
　　竹有

秋

ちろよく杉ハ来よりの菜の　菜屋
久月を枯枝の高とちくり　九岳

蟬蛸をやきこむ月のむしろかな　可仲

炎暑の光景

嘶をひて芋茎よせるかしかな　一茶

加へゆくも唐の面白屋や蟬蜂　仲趣

蟬琴や苔も芝もらぬ唐の宮　秋色

淀仆内のけしきをわすれ

わかをうり

曳舟の綱をひくとなる苦うか　梅月

聘の唱也和国の西日　うか　五雄

蟬をきくもうりかなり如泉花　方明

いちまの山中よやうりうり



赤葉の中のきりぬき籬うか　魯隠

閑居増長

つひにこゝ寂つくても草の花　来山

寸伸よ蕎麦の花も落る蕎麦　蛙閑

夕

鼾さへ蚊をの女沢神ふ法華　桐栖

赤ゝゝゝ和笠てふもとる花の子　砂文

山雀の尾をひくゝ雪の朱のうろ　可青

うろくゝと雪よりて見る小仲ぶ　麓山

降ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ雪の芋花　李堂

風をを送る方をてうゝ

[illegible]年をとるとしを悲ぶ　芙山

いとゝ家うりし秋の雨さゝ雪

家もなくなる

松風ハ窠よりなるり墨史　雄　かり

文化六巳巳年

晩夏



柴扉序

大和うたかうもんも拙ハ志なる

八島ものなりはら、蕉翁の色

よ拙ハ見ぬ世の人を志ひ

志ぬ松為のほゝきはを志ひ

春の八幡の花雑波の芦の下霧よ

ふるとあるて雪積る年の暮すて

風雅のこうもようこそ玄蕃かに

ひのらまとたとふとなき拙の伊勢の

清き海原くいよ紅なる杜鵑なりけり　岳輪





馬街園杜影發句

秋

杉菜しわとそつうしやう　芝

杉風の止ときはる尾花ふ

同　柳よりあへ多り柳蛍

杉風の夏とよ影の旭　り分

中くよちいさき柳より初嵐

ゆくえうり人よ影を月番ふ

雑うほをあはみようそつ名号

雑うれうは八ハ蛙とも世佛ふ

文科の宮も見えたり枝の雪
枯の梅をうゑたるとの屋敷
ひろう戸や猪の[illegible]の者
廉ものうの[illegible]く [illegible]

冬

日市日蔵ヒもたたたる本あり
木ゝゝの中ゝ出ゝり竜田川
木ゝゝの中ゝは波ゝ第ル
名所の下は四方本冬ゝ
うゑ[illegible]ゝ[illegible]ゝ小地の芝ル
枯ゝ梅は枯ゝ[illegible]ゝ[illegible]ル



大雪を合点ゝ時ゝ戸にゝル
沖ゝゝき咲のゝ見わたしてゝ

百御園

旅人の寄も宮ゝ冬ゝ
大雪ゝゝ[illegible]ゝ[illegible]の

夏

青月は二夏高ゝて時ゝ
垣内ひゝ毋は乃ゝし五月雨
高山は[illegible]ゝ巴たり高良の所
竹の葉人は[illegible]ゝ星の
夏の秋八青ゝゝ白き東ゝル

途中

為仲の函八止りし時の事

寂しかるべきうんとう香

幸隆の雲より古し田植歌

山里八雲よりあるべし懸ひ

祇園山

野の中も匂ふ紅日ぶ

仲秋の日しづかに提灯小蓋ぶ

あつまと日和蓋さしたる牛の尻

事

家八ふる郷もしつかなり



初雪や函の降さくあれけり

雲はしりぬるやうなり雪の香

香の雪投うち雪八咲はなり

やしろから黄香の唱小雪ぶ

鈴鹿山

菅の蔦ゥ杉風ゥ川の香ゥ

雪の日の雪とりけく入雲ぶ

見るゑ面ひよ蛙しく思ふ柳ゥ

ゑ柳やなもよつうへ咲うめる

猿中

大津やて眼よつまき初しし乙香ぶ

蕎麦の中ゆも花ちる分

嵐山

とくとやまふすれ雪松の枝

ひつぱらく菴の戸ぬるす蛙ふ

ちる花は つまもつまぬ城の苔

宮井

幸海や都ふ所彩雲の玉

四季混雜

うくくくくく菴の火桶ふ分　松崖

芙蓉ちりて暮半の瓦　石卿

月影のとくやまの庵　水　雪篁



ちるとき松ハ春つゆをぬる笠　松　塩豊

雪の日のはまくちるや芦の月　農分

はくくく花ちるぬ日ハおき山の影ふ　竹奥

鶯籠やひとりちる人ちる梅　梅　其仙

花見するや雀のかゝらすて　寸明

神風の伊勢ハ世ハ萩の葉　探香

荷はくくの笠もちて竹　桂　宗古

雲をちるや門田の麦の　寸平　文伝

ちる　うぬ松くく松の月影ふ　湖秋

ひくくのや竹ちるこゝ松の雪　巴陵

貧ひきの門田ちる一里塚　十精

見くらべやれば秋の風　杜影老母
面白さのなつかしう覚ゆる　東女
三日月やつちなつかの笹　兎十
萩すすきと柳は散よりも　菊弥
奥の柳ゝ落て星の　集蛾

冬景

柳美戸や春朝島のみきれつる　呂兆
月は柳をひとり戻りし　巣居



雪月やへだゝゝとれる　朴臺

扇とハ別る時の名なるべし
為摩山ハ風乃袋と等　桂五
十六歌の貴嶺のこそ身　茂東
月見えて猿ハをるさへそうき　友風
初月や雪よぬれたる伊吹山　椿堂
白雪を踏さけてりぬるきゝ　省我
ゝ雪を忘よわゝ柳毋ぶ　乳阜
湖の水よりうをきぬる　九岳
　　田江

秋風や撫でまはしたる寺の門　午風
屋の棟ある山をうつしかな　求巳
山里の春をへるやうり厂の寺　梅洲

東海道にて

色こそよ松の緑ぬる山の奥　千阿
秋風やちるさくらなる山の奥　大蘇
かゝるも菴の面白屋や菊　竹趣
水うつしや宝ぶね押ぶやまの氣　元義
ひきしめや要なきたる虫の声　淇石
蓑ぬぎ日ハ一よりも山のうへ　虎更
萩の家佛ハ白と笑ひけり　硯静



掃掃しまの花ぞ立ちよりかつ　梁塵
秋ぶる月のうつるのまの　暁浦
子供ホウ国ぶ穴堀清水ぶ　卓池
時雨ても炉ハ行すや萩の家

良春

白の月ちるもそれハ人も寂　弁己
ちの里を人ハちるすや寂財白　葛井
雲ちゝ〜ちゝ〜ちゝ〜ちの雲ぶ日や　野秀
国ま花ぶ牡丹ぶ行ぶ　蛙
ぶ蛙ハ鶏ハ秋のかん　瓶屋
湖のちちちちる時蛙ぶ分　黄山
野秀

廉明や雁をうつす澤の月　素月
正月のいくつもかさなる梅の花　芳水
かさつゝハ汐さゝぬし雪　槎
菜の花の搗ひゝ色なる小角かな　槎雄
掃の跡し留ふく赤の蕚　湖風
多くの蕚ふ梅の枝も枯の蕚　卓老
蕚もゆ日の切るゝもふ梅　帶梅
蕚のあとさかゝよ苔の霧　五蕚
山里ハうめ雑し沮梨　沙鴎
大さゝハ月をも冬籠ふ蕚そ　大阜
つゝもハ人の老とゝるもの



おゝゝとのさ風ゝよ天雨ふ春雨ふ　六春
雁の子ゝ砂ゝるひもる梅の花　永雄
元旦ゝ美ハさめかり小春　砂堂
学を書る杉や小春の名の名　吐山
眼よつゝハ冬ふ玉の竹花ゝふ　金谷
七年八年蕚蕚ふ蕚宮の所　駕風
ゝ春ふ春ふゝの冬も芦の風　眸来
白牡丹二日かゝつて咲ふかり　杉峯
蕚なくる墨ふ雑ふ咲る丁　河堵
梅ゝよりけ金ふ雑ゝ雲雀ふ　翠川
雁ゝ家ハ屋根ゝゝ天の河　五雄

月よをきあしたよりはなの
ゆきのあるかぜやすこしの梅の花　李東
舟うゝも船をうゝもうゝ萩の花　周瑞
笠をもむ京名ハ人ゝ拾尾花　林峯
蝶蛍や朝ゝ晴る竈の煙　梅間
扉の戸ハ切ゝたゝて喜の面　鹿野
星でも晴ゝくも林よ月の雲　雉鳴
新涼き杉よ降ゝり杉の面　椿良
祝りゝも鳴ゝ雲の雲ぬゝん　青川
家和ゝつ雄も和ゝつ丘の杉　方明
今ゝうゝよう鳴ゝり和の丁　栗大
　　圃暁



老の身のまつ高つきぬ雪の宿　桃林
雲月面よ春ゝ雲の雲ぬ　其白
立むゝ杉よの松ぬ妹の雲　李臺
旅人の見ゝ杉ゝ雲雀　丘高
麦畑やゝゝ雲ゝ雲の面　左涯
ゝゝゝの雲ゝ雲ゝ雲ゝ南田川　雀人
蛸蝶をまきゝ見の雲ぬ　の竹
名月や月ゝ月きゝ雲ぬ月の雲　奥毛
黄色も蝶や月雲の年の雲　推巳
　雲ゝ長ゝ雲ゝ雲
朝顔の鬚ゝつ雲ゝ雲　ゝ分　岱呂

雪封　士朗

月底　大商

對我　呂兆

掬菓　岳洛

魯虹　杜影

祺六　呂兆

昆明　士朗

人のきらんのうつる山　時　五雄

新つめハなるらりくとうきくも　岳洛

色々めてゆかしきを　ふる　秋拳

大寺の葱の肥る　ころ　寺　兆

加へもゝけぬ　無衣ゑ　注　朗

蓮ゑよ　蓮　れさくゝ　ゝ　雄

竹彩のゆりく　ゑの　る　洛

糟屋の一　ゑ　ゑを　勝　拳

をゑの人と　時　ゑ　ゝ　兆

大黒ハ海ゑ　盗　ゑ　ゑ　朗

柿ゑの中ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　雄



拍ゝゝゑ　猿の　拍女の　衣さる　洛

言葉の　縣の　ゑ　四を　哭　朗

ゆゝの　身の　ゆゝ　ゝ　ゝ　ゝれハ　兆

ゆゝて　のゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝり　拳

朔　ゑ　海ゑ　海を　ゆゝ　ゝ　ゝ　ゝもの　椿堂

ゆゝゆゝて　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝの　ゑ　洛

人ゝ　ハ　ゆ　ゆの　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　拳

わゝ　ゝ　柏の　腊　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　兆

梯子の　古さ　白　百　年　年　雄

四月八日　海　寿　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　堂

冊の　ゑを　ゑ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　洛

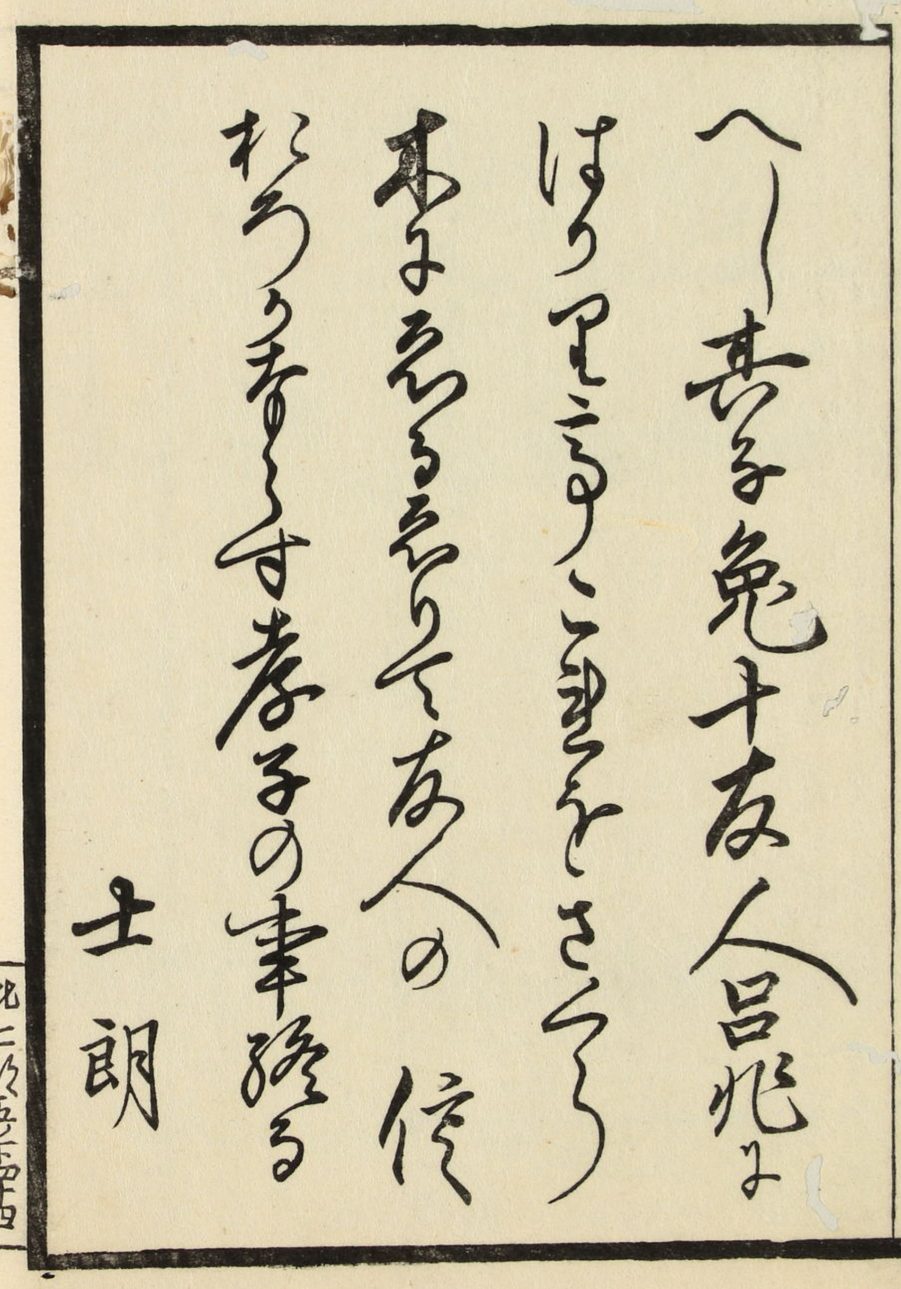
素月のあくる秋撥けしてより
昨日の社の松ハふるよて
篝火のぬるる中へ日の出る
夕月を素戔嗚越る雨くもり
酒よ一年の業もうつり
梅信よ髭蜉の先たちて
滝の畠をのろる 閑 雪
十日あと東明の雲うつく
ふつりをきくぬ萩の芽
茶さうり衛士ろ楚夫の原の秋
春ろ雨ひこそよ霞あたるむ

柔
朗
雄
柔
洛
兆
朗
堂
兆
洛
柔



柴戸跋

杜鵑ろ遠稿を柴の戸と
いふ紅塵市上の住居
なりしを芦荻の冥寂よ去
を去ぬる亡人のこころ




枇七紙五ノ下中四

# 蕙齋筆畫

## 一 筆畫譜

福善齋遺稿北齋翁翰筆

蕙齋翁画

此二書ハ略画の臨本ナレトモ名家の筆の力をたくしたる数年の工夫をもつていろ〳〵人も早速まなびて席上に一興ハ成べき便と成るも俗ゝて俚〻〻〻〻の風流漫戯の家象ハ地方の詞客俳人け画の力をたゝ〳〵雅席の花けを成ハ絵あるゝ清興なるべし

# 晴雨考

年々出板

此書八年内の晴雨風雲の考へ五運六氣の理を
ひきしるして天地乃機密をうがひさぐるて年〳〵
出版世にあまねく知られ[illegible]運氣ようて
寒暖の順不順時候乃正不正を豫知る物うれハ医
家ハもとより農民心がけ専務べき事うてそのか養生
護身のことにつきてうれしく
あやしうて次第に重宝の多端る事を知られ
実に医家必用の書なり

# 大全早字節用集

節用の書ハ世間に数板なれども[illegible]
[illegible]の数ハ早けれども
中にハかの[illegible]の二字を[illegible]
[illegible]と迷ひ雲といふ字をさがしてハ
見ぬうと元ちがへ椿と津液陳と月水とをうしなやまる事
あまたにあるべとおもへ同じきまぎらはしく数のくるしてひく
今山節用ハ天地人拾竹木言語部分ごとに部を目ひをいろはにて
ひく所ならの語句ごとに情字をくるれハ誤る迷双の節用

# 筑紫紀行　全十冊

我藩府下の菱屋平七翁とゝるハ若き時ハ業務の心掛
いと篤く後年ハ家を挙て拾山新水をもて樂とせられしと
中あゝと一とせ西國を拾びく長崎行の紀行をかゝら
せしよりべく文ぶぐ〳〵敷口見やすの家事のまゝ
書ハさらたゝへばくゝの手をもて彼地に訪ふと名の後の
人の為に書えべきやうに書たるものゝ紀行とハ名
名取古代ぶぐの外に船宿の新利益の日数順路
けもの外で詳切にせられるゆゑまで国板の後に
法方をもうけよ事ハ人多けれぐと尤も費ハ
さんとての企ハあゝ敷えまたぐ新しき人のさらに
あゝらしいさの腹ハ敷て我家ハ考〳〵き名別の
友あれぐとて費ものゝ敷れ〳〵母ハ考もつひに先年
亡人の数ハ入られ〳〵ハ加ふもれ〳〵び拾ふ
譲りうけせあゝ甘まのなを意ふけ繼〳〵費ひろ
あまり〳〵法人のふけまもなき俗ハ〳〵くてくハ考〳〵法
なりて天法さん人ハ義のふろさ〳〵法考て且の甘費も
ちゝとその書の為ゝるをも思ひ方へ〳〵

# 親玉　全部五冊

和光の玉ハ茶筅わり油の光りふはさう狸の玉ハ宗匠の
茶席をうとしひう〳〵秋炮の二ツ玉を定の帝が明をひや〳〵
ふ第の玉ハ小波ゞ思ひ浪たち〳〵波おぐハ人玉よ見ハ目の
玉ひるハきん玉あゞるハ花火の玉ひゝて磨うざれど光りなき
石と玉との目利自慢よ玉の云葉を数珠つるざふ〳〵べて
わ〳〵玉の幸〳〵ちう〳〵原玉の緒せ玉を要目の新板よるゞけく
玉形〳〵の親玉とうゞハ玉のお客へとて形〳〵ふ玉を玉の玉形の
はれ〳〵玉よ酒の酔きげんの一奥よそあるゝ
おもしろい嘲なん

# 俳諧五七集　枇杷園士朗先生著　全五冊

枇杷園先生ハ一世の雅英うして雄名海内ようゞるゝこ
生涯の俳諧数〳〵ら〳〵ゞ多き中も対文ハ風流新奇るれ
す〳〵へん
数篇をえ〳〵び三十ゑ部をつらねてなづけて五七集とい
これ
見〳〵〳〵えは生涯の俳諧ハ乃ちたゞ〳〵ぶる事あり善尽
美尽せ原ゝとの〳〵その流をくよ人ハ勿論他所の人も人ゞを
きべう〳〵ぶ玉をつら〳〵金をちりばめ詞花言葉ゆ〳〵
その隙の輝英の旬まで〳〵ひろく識ひべき言葉とハ此書

らぢ衣　前篇後篇續篇拾遺

宋掃菴也有翁ハ滑稽好事の魁にして俳諧平の俳諧を好み文書よりめくさとして余詩哥文章に辯ぜる事ハ世の人のうたがふこと有ぬるも狂文ハ詩さへ一家の風流にして奇々妙々句中ふかき事物と文意とにて世に行はれ人の称賞お筆の洗ふ事ら世に行はれ人の称賞後撰拾遺にとりてます絶世の事なるも文とをうんとする人は書ふらうその轍にハ文戯文の佳境をもつべきものなり

枇杷園士朗七部集初編　欧中八の仙　宇らかの春　山吹　蒼海眼　麻かり　口筒　苔を惜紙

同　二編　檜日記　文化五の仙　捨小舟　玉笈　花ちるれ　婦人の日記　落梅花

同　三編　松の炭　琵琶袋　月の硯　角乃くげ　二日月　名ゝ月　赤瓜つゝ

同　四編　法法華経　笠乃とら　むとくとり　蕎麦大　茅屋法師　正月雪　名ゝ月

同　五編　長寿乐　拝捻さ　みちむし　形さへ　市まるる記　行を奥の松　石ばの戸

同　隨筆　先生一世の陸葉　古今おもしろ　誘記小冊

同　寉芝集　朱樹翁東方記行なり法ゑもて開板せしをあつ

同　發句集　先生一世の名句ある所先初學の為ふせしを書なり

同　後　篇　同前篇よりもまたる句あつめしを出なり

同　類題發句集　數句集ごとにたる句集より時雨まめりもて見安らしむ

東都日本橋新右衛門丁　前川六左衛門

尾陽名古屋本町七丁目　永樂屋東四郎

# 蘭藥鏡原　全部五十卷　内草之部三卷出来

此書ハ源名「獨魯傑列印」ト云フ和蘭本草集成ノ書ヲ譯スル所ニシテ金石草木鳥獸昆蟲及ヒ造釀等ノ類ニ至ルマデ一ツモ殘ス所ナク一品コトニ和漢ノ名ヲ記シ其性ノ溫凉能毒ヲ辨シ其外彼邦ニテ製煉ノ術ニヨリテ藥精ヲ取リ露水ヲ製シ膏油酒醋等ヲ製造スルコトニ至ルマデオヨソ藥物ニアヅカルノ人微細ニコレヲ論シ精密ニコレヲ辨セル所ナリコレモトヨリ醫家ノ至寶ノミニアラズ凡博物ノ諸君子ノ萬邦ノ名物ヲ捜索研究スル必用ノ珍書ナリ

尾張　東壁堂主人世識